

犯罪学研究センター トークセッション

北欧の刑務所における
リフレクティングの展開と含意

Date

2019 3.23 1:30pm-3:30pm

Place

龍谷大学 深草学舎 紫光館2階201教室

You,
Unlimited



犯罪をおかした人たちの回復支援・社会復帰の初期過程
—対話的コミュニケーションによる援助関係の構築—

～どのようなコミュニケーションが回復支援や社会復帰の有効性を高めるか？～

すでに北欧を中心に実施されている
リフレクティングの実践について、
第一人者である矢原隆行先生をお招きして
トークセッションを開催します。
みなさま、奮ってご参加ください。

事前申込不要・参加費無料

主催：龍谷大学 犯罪学研究センター

[TEL] 075-645-2184

[FAX] 075-645-2240

[E-mail] crimrc2016@ad.ryukoku.ac.jp

[URL] <https://crimrc.ryukoku.ac.jp>

[Twitter] @Ryukoku_CrimRC

Special lecture on criminology

テーマ

北欧の刑務所における リフレクティングの展開と含意

- ・ 講師：矢原 隆行（熊本大学大学院社会文化科学研究科 教授）
- ・ モデレーター：吉川 悟（本学文学部心理学科教授・龍谷大学犯罪学研究センター「対話的コミュニケーション」ユニット長）
- ・ 主催：龍谷大学 犯罪学研究センター（Criminology Research Center）

企画趣旨

犯罪学研究センターの研究プロジェクトとして2018年度より開始した研究会では、これまでの犯罪をおかした人たちへの対応とは異なる対応の可能性を検討する中で、「どのようなコミュニケーションが回復支援や社会復帰の有効性を高めるか」についての検討を行っています。

今回は、研究プロジェクトの一つの柱として注目した「リフレクティング」*1に焦点を合わせ、すでに北欧を中心に実施されているリフレクティングの実践について、第一人者である矢原隆行先生をお招きし、その概要をご報告いただくとともに、リフレクティングの実践の効果としてどのような展開が見られるのかについてディスカッションを含めたトークセッションを行います。

犯罪をおかした人たちへの新たな対応可能性に関心を持たれている関係者の皆様のご参加をお待ちしております。

プロジェクト主任 吉川悟（文学部臨床心理学科）

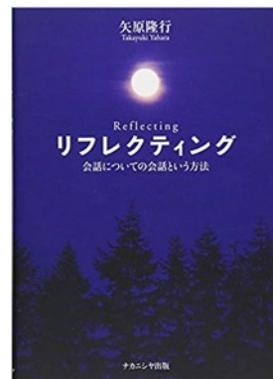
*1「リフレクティング・プロセス（Reflecting Process）」：ノルウェーの精神科医トム・アンデルセンによって提唱された家族療法の手法。

講師からのコメント

矢原 隆行 教授

家族療法やナラティブ・アプローチで知られるリフレクティング・トークは、近年、オープンダイアログの中核的方法としても注目を集めています。このリフレクティング・トークが、北欧のいくつかの刑務所において、入所者と刑務所職員、さらに、入所者家族や多機関の職員をも含めた人々のあいだに会話のスペースをひらく取り組みとして実施されていることをご存知でしょうか？今回、その実践の具体的内容と含意について紹介するとともに、日本における展開可能性を皆さんとお話しできればと思います。

右画像：
矢原 隆行（2016）『リフレクティング: 会話についての会話という方法』ナカニシヤ出版



アクセス

- ・ 京都市地下鉄烏丸線「くいな橋」駅より東へ徒歩約8分
- ・ 京阪本線「深草」駅より西へ徒歩約12分



Shall we do
Criminology?

Ryukoku
CrimRC

龍谷大学
犯罪学研究センター

